

# Paul Jacoulet ポール・ジャクレー展



椿の種 伊豆大島 1957年 Camellia Seeds, Oshima, Izu (1957)

自然と暮らしを見つめて

■特別協力 稲垣・ジャクレー・テレズ氏 猿渡紀代子氏

■後援 在日フランス大使館 /  
アンスティチュ・フランセ



軽井沢町歴史民俗資料館 〒389-0111 長野県北佐久郡軽井沢町大字長倉2112-101  
TEL.0267-42-6334 [www.town.karuizawa.lg.jp/](http://www.town.karuizawa.lg.jp/)



2025年 9月15日(月)  
— 11月15日(土)  
11月10日のみ休館

■開館時間 9時～17時 (入館は16時30分まで)  
■入館料 大人 400円 小・中高生 200円



大漁祝、伊豆 1939年 The Miraculous Catch, Izu, Japan (1939)  
© ADAGP, Paris & JASPAR, Tokyo, 2025 E6122



チャモロの女-暹、連作「虹」より 1934年  
Portrait of a Chamorro Woman - Violet (1934)  
© ADAGP, Paris & JASPAR, Tokyo, 2025 E6122



枇杷の籠、中国人 1950年  
The Basket of Medlar Fruit, Chinese (1950)



1946年頃のポール・ジャクレー

フランス・パリで生まれたポール・ジャクレー(1896~1960)は、3歳の時に来日し、64歳で亡くなるまで日本で過ごしました。10歳で浮世絵の模写を行い、13歳の頃には池田輝方・蕉園夫妻のもとで日本画を学びました。

江戸の浮世絵を愛し、38歳頃に自ら摺師・彫師と協働し、木版画作品の刊行をスタートします。

1944年に軽井沢へ疎開し、これを機にこの地で暮らしはじめます。南洋の島々、日本、韓国、中国等さまざまな国の老若男女を鮮やかな色彩で表現した作品は、戦後に駐留アメリカ軍の人々から高い評価を得ていきました。

今日でも、万博のフランス館でポール・ジャクレーによる版画が飾られています。

今年は、「自然」と「暮らし」という二つのテーマから、幅広い年代の作品を展示します。

ポール・ジャクレーが描く「自然」は描写が細かく、地域によって描かれる植物も異なっています。一方で、生き生きとした姿で描き出された人々の「暮らし」は、地域と時代を超えて現在の私たちにつながるものを見ることができます。

## お知らせ

10月1日(WED)ー11月15日(SAT)  
リニューアルオープンとなる  
旧三笠ホテルにて、  
ポール・ジャクレーの  
ポスター展を開催します。



馬の鈴草、トンダノ、セレベス島 1953年  
The Giant Aristoloches, Tondano, Celebes (1953)

## 会期中のイベント

7月15日(火)~11月15日(土)

ー特別企画展ー

### 高原を駆ける草軽電鉄 地域・人をつないだ鉄道のあゆみ

浅間山麓の高原地帯を駆け抜け壮大な自然とともにあった草軽電鉄のあゆみを、豊富な実物資料をもとに紹介します。

11月9日(日)

ー文化講座ー

### つなぐ歴史と記憶 戦時、戦後3つの大日向(予定)

講師:高木 亨

場所:中軽井沢図書館2階多目的室



■ポール・ジャクレー展特設ページ  
(8月1日から公開予定)

<https://www.town.karuizawa.lg.jp/page/14214.html>

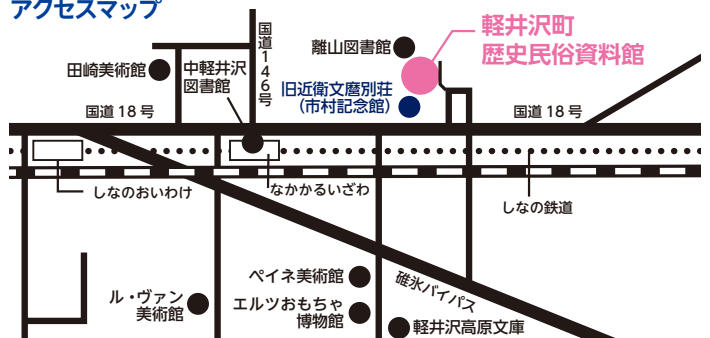
[問い合わせ先]

## 軽井沢町歴史民俗資料館

〒389-0111長野県北佐久郡軽井沢町大字長倉2112-101

TEL.0267-42-6334

## アクセスマップ



■アクセス 北陸新幹線(長野経由) 軽井沢駅より車で約7分(3.2km)  
しなの鉄道 中軽井沢駅より徒歩約20分(1.7km)  
上信越自動車道 碓井軽井沢I.C.より一般道約20分(14.2km)